

えいせい

NO. 12 2010年8月30日発行

発行責任者 森越 初美

T E L 03-5320-7412 (直)

内 線 63-210

F A X 03-3349-1502

Eメール info@eiseikyoku-shibu.com

U R L http://www.eiseikyoku-shibu.com

開会総会での各国の方々の発言を聞いて、NPTから続いている核廃絶のうねりを更に強めていこうという熱意が伝わってきました。2日目の分科会は、原爆遺跡・碑めぐりに参加しました。予想していた通り35度の猛暑の中、平和公園内のいくつもの慰霊碑の説明等を聞きました。原爆投下後人々は暑さと水を求め川に入り、川は瀬戸内海に流れ満潮と干潮で水の流れは急で、流され戻って来るとの事でした。

今までテレビで大会の様子を見、暑いので私には無理だと思っていました。定年間近になり組合員のときに行かなければと思い立ち、参加する事になりました。(若い組合員の参加が無く、北療分会の書記長と2人での参加となりました)

原水禁世界大会に始めて参加して

北療育医療C分会 柴昌子

原水爆禁止2010年

世界大会国際会議宣言

原水禁世界大会は、宣言を採択し成功裏に終了しました。「被爆65年にあたり、我々は、広島・長崎の被爆者、世界の核被害者への支援を強化し、その体験とたたかいを『人類的な事業』として継承するようよびかける。」

似島の被爆者

似島(にのしま)にもたくさんの方が運ばれ亡くなっています。また、公園内は盛り土をして整地されていましたが、この下にも犠牲者の骨が未だ沢山埋まっています。

閉会総会後の灯籠流しには参加出来ないので、前日行われた似島の灯籠流しに参加しました。

これは似島に眠る多くの原爆死没者を追悼するため、語り部による語り、参加者による献花・黙祷及び灯籠流しを行うという企画でした。

核兵器廃絶を継承する大切さ

分科会で似島のことは聞いていたのでこのイベントに参加でき広島原爆の歴史をより深めることが出来ました。閉会総会では、核兵器廃絶を言い続けることの大切さを感じました。

全世界から7400名参加 核兵器のない世界を 実現しよう

北療育医療C分会

竹中勝美

8月4日早朝、850名の東京代表団とともに、新幹線団体臨時列車で広島に出発しました。広島に着くと、昼食もそこそこに原水爆禁止2010世界大会の会場であるグリーンアリーナに向かいました。会場につくと、全国・世界各地から集まった参加者であふれ、空いている席を探すのに苦労しました。主催者発表では、7400名の参加とのこと。東京代表団は一部以上の参加です。

海外からは、政府代表・政府関係者、平和運動団体など27カ国75名の参加があり、海外の取り組みについての報告がありました。その主張は、どれも簡潔明瞭であり、「核兵器のない世界を実現する」という思いのこもったものでした。「核兵器に依存する安全保障体制に組み込まれながら、非核三原則を主張する日本」というねじれに納得のいかないものを感じ



左・竹中さん、その右・柴さん

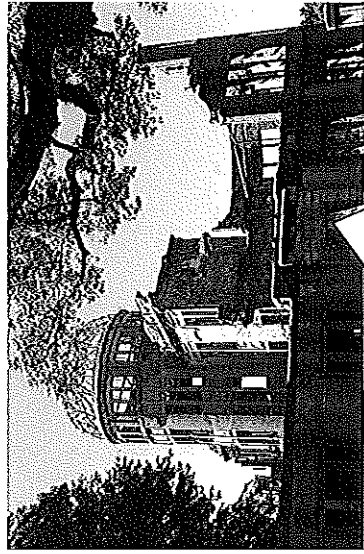
しました。

夕方は、東京自治労連の交流会に参加し、親交を深めました。翌5日、分科会に参加しました。分科会「憲法9条を生かした非核平和の運動」に若干遅れていくと、会場は満員で、別の分科会会場に行くように言われました。予約していてもだめとのこと。次も満員で、3ヶ所目に若干空いていた分科会「核燃料サイクルと核兵器の廃絶」に参加することができました。この時期の広島では、世界大会関連の行事だけではなく、行政や職員組合、さまざまな市民団体が8月6日に向けた平和・文化イベントを行っています。観光案内所におかれたパンフレットを見て、夕方から「似島(にのしま)船上追悼イベント」に参加しました。

似島で被災者の冥福を 祈って灯籠流し

広島港からフェリーで30分の似島は、原爆被災者が大勢運び込まれ、9割近くがそこで亡くなったとのこと。当時、似島で運よく生き延びた方のお話は、65年を過ぎた今でも、被爆の悲惨さが伝わってきました。かつての原爆孤児の収容施設であった児童養護施設「似島学園」の子どもたちが作ってくれた灯籠を流し、原爆の被災者の冥福を祈りました。

翌6日、広島市主催の平和記念式典が開かれました。一般の方は参列できず、ロープを張られた会場の外からの

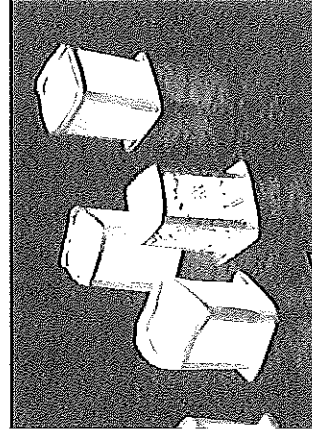


原爆ドーム

参加となります。会場である平和公園は、式典に参加できないながらも、大勢の人が訪れ、スピーカーから流れるアナウンスに聞き入っていました。早めに行った私たちは、運よく会場横の木陰に場所をとることができ、カメラの望遠でのぞきながら見る事ができました。

被爆国の首相は世界に核兵器廃絶の発信を

8時15分、原爆投下の時刻に、平和の鐘がなる中、全員で一分間の黙祷をささげました。菅総理大臣の姿も見えましたが、挨拶は政権が変わってもかわりばえのしない内容でした。原爆の投下国であるアメリカの大使が初めて式典に参加したようですが、献花もせず、ただ参列しただけでした。10時半から、世界大会閉会総会に参加しました。参加者は4日の開会総会より若干少ない様子ですが、2階席まで埋まり、熱気があふれるものでした。主催者報告、海外の政府代表の挨拶、被爆者の訴えのあと、反核署名住民過半数達成の報告など、各地の草の根の取り組みが報告されました。



灯篋流し

核兵器のない世界の実現のための具体的行動を呼びかける

原水爆禁止世界大会広島決議

最後に、「核兵器廃絶条約の交渉開始を求める」など核兵器のない世界の実現のための具体的行動を呼びかける原水爆禁止世界大会広島決議「広島からのよびかけ」が、満場の拍手を持って採択されました。

駆け足の3日間でしたが、非核と平和について考える毎日でした。この思いを、職場・地域に伝え、核兵器のない世界、戦争のない世界の実現に向け、一人の人間として行動していきたいと思いました。

若狭地域の原発地域問題 (第52回自治体学校に参加して)

精神研究会 山本 明広



自治体学校参加者 左・山本さん

安全性が求められる原発問題

2日目は24の分科会に分かれて、それぞれ情報交換が行われた。私

7月31日から3日間、第52回「自治体学校」が福井市で開催された。第1日目の記念講演(専修大・晴山氏)や最終日の特別講演(京大・岡田氏)等では、昨年からの民主党政権交代後の構想と現実とのギャップについての現状分析が報告された。

7月31日から3日間、第52回「自治体学校」が福井市で開催された。

(山本)は、「原発地域問題」に出席。現在15基(全国で50基あまり)にもおよぶ若狭地域の原発について、(1)これまでの反対運動、(2)みかえりとしての補助金漬けの自治体運営、(3)老朽化した原発(40年)の危険性および新たな地殻変動期に入つての断層地震の危険性についてレポートがあつた。午前中には、ナトリウム漏れ事故後14年ぶりに試験運転を終えた「高速増殖炉・もんじゅ」の現地見学会があつた。内部に立入りはできないものの、子口対策のためのものものしいセキユリテイ

都区職員生協からの お知らせ

サンプルーン

9月28日(火) お昼休み

350円

300円(組合員価格)

350円(その他)

※本庁職場以外で取り組む場合は、予め支部にご相談してください。

CO₂による地球温暖化対策に必要?

CO₂による地球温暖化対策として代替の電力が注目される中、原発の存続はエネルギー政策の必要悪なのだろうか。考えさせられる問題である。なお、自治体学校の参加者は約千名。自治体職員が2割、地方議員が2割、関係者4割の比率であつた。東京からは区市を含め約100名の参加があつた。

「チェックに緊張した。